

# トホクの小松菜栽培方法

発芽適温：15～30℃ 生育適温：15～30℃  
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；1～2年あける

## 1. 作物特性

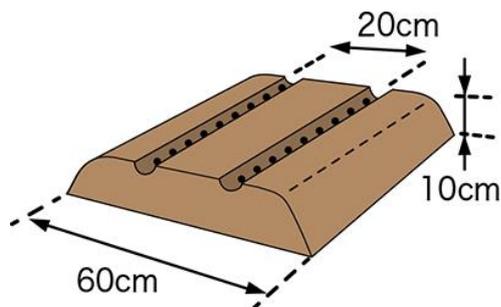
小松菜は暑さや寒さによく耐えるので栽培は極めて容易で、また比較的生育期間が短く、夏の高温期では20日前後、冬の低温期でも90日足らずで収穫できます。年間を通じて作ることができますが、秋まきの9月中旬～10月上旬のタネまきが最適です。春まきは4月上旬～5月上旬にタネをまくと失敗が少ないでしょう。プランターでも手軽に栽培できます。

## 2. タネまき

ハクサイやキャベツなど他のアブラナ科野菜との連作は避けて畑を選びます。うねは水が溜まらないように平らに整えます。



深さ1cmくらいのまき溝をつけ、スジまきします。タネの間隔は約1cmで、土をかけて手で軽く鎮圧し、土を固めない程度にいていかに水をやります。



芽が出るまではタネが流れないようにジョウロを使っていないに水をやります。



## 3. 栽培管理

生育に合わせて数回に分けて間引きし、本葉4枚までに最終株間の5cm程度になるよう1本立ちにします。



素直で勢いのある株を残すように間引き、本葉3枚以降に間引く場合は残す株の根を傷めないよう根元をハサミ等で

切って取り除くとよいでしょう。ちなみに間引いた菜も汁の実などでおいしく食べる事ができます。追肥は必要ありません。最後の間引き時に条間を軽く耕して株元に土寄せします。アオムシなど害虫防除に防虫ネットをトンネル状にかけておくと効果があります。

## 4. 収穫

草丈20cm～30cm頃が収穫の適期です。

保温用のビニールトンネルや不織布をべたがけすれば、秋の遅まきでの厳冬期収穫が可能です。また小松菜は生育が早く、一度に大きくなってしまえば採りきれません。何回かに分けてタネをまけば



収穫期もずれ、長く楽しむことができます。とり遅れて大きくなりすぎたら、そのまま春まで置いておきましょう。お彼岸が過ぎて暖かくなると蕾が上がってきます。

小松菜の菜花が収穫でき、花の咲く少し前の蕾を茎と一緒に摘み取れば、おひたしなどで美味しく食べられます。

●栽培例 ●まき時期 ●収穫時期

| 月   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 冷涼地 |   |   |   | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  |
| 中間地 |   |   |   | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  |
| 暖地  |   |   |   | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  |